

復活祭第3主日の説教

金 大烈 神父 2009年4月26日(日)

《悟らせてください》

おはようございます。

今日の野外ミサは雨の為に中止になってしまいましたが、国籍を超えて私達はイエス様の体の一部として同じ心でミサに与っています。

今日は皆様に言葉の話しをしたいと思います。これは何日か前の平日のミサでも話した内容ですが、今日の福音(ルカ 24・35 48)を読んで思い出した事がありますので皆様と分かち合いたいと思います。

"何にかに気がつく"・"何かを悟る" この2つの言葉の違いがわかりますか?似ている感じはしますが意味は全然違います。即ち、何か家に忘れ物をしたのを思い出したとき "忘れたことに気がついた" と言いますが、"忘れたことを悟った" とは言いません。

"何にかに気がつく"という言葉はある意味で軽くそしてよく日常生活の中で使われる言葉です。しかし "悟った" という言葉は日常のなかでそれほど多くは言えない言葉ではないかと思えます。いろいろな経験や知識によってすごく早く "気がつく" 事が出来る人がいます。そしてそのような人の事を "賢い人" とか "頭が良い人" と言います。しかし私は "悟った" とかあの人は "悟った人" と言う事はあまり聞かない話です。

"気がつく" 事は自分の力で出来ることです。しかし "悟る" 事は自分の力では出来ない事で神様から頂くものです。「悟らせて下さい。」と祈らなければかなわない事です。ですからカトリック教会の祈りの文章の中では『悟らせて下さい。』という祈りの言葉が沢山入っています。

今日イエス様は弟子達にこのような表現をしました。『聖書を悟らせる為に彼らの心の目を開いて、言われた。』私達が死ぬ時までどの位の悟りを頂けるかわかりません。その条件は私達がいつも、いつも悟りを得ようとする心が必要です。だから『悟らせて下さい。』という祈りが何よりも必要だと思えます。私達は日々様々な祈りをしなくてはなりません。その内容は沢山あると思えます。その中で何よりも優先的に祈らなくてはならない事は『あなたの御旨がはっきりわかるように悟らせて下さい。』という祈りではないかと思えます。

はっきり申し上げます。自分の罪や間違いに気がついた時、反省は出来ます。しかし "気がつく" 事だけでは悔い改める事は絶対出来ません。

悔い改める為には、自分がどの位の罪の中にいるのか、神様の愛の中にいるその自分の生き方を悟らせてもらった時にこそ、自分の罪を赦されなくてはならないという心が生じます。私達が祈りによる信仰生活で求める事は "気がつく" 事ではありません。

"悟る" 事です。もちろん宗教によってはこの "悟る" ついていろいろな解釈があります。しかし、カトリック的な解釈は「神様から頂く一番大きい恵みです。」皆様、私達は毎日毎日 "悟る" 生き方をしなくてはなりません。"気がつく" 生き方ではありません。"悟る" 為に神様に祈りましょう。

今日の福音の中でエマオに行ってイエス様に出会った2人もパンを裂いて下さった時に目が開き、その時にイエス様のことが分かったという告白があります。もう一度弟子達の真ん中に表れ、私があなた達の慕ってきたイエスであると言い、目を開き悟りを与えて下さった御言葉が話されています。

皆様、私達は結局悟りがなければ生きた信仰とは言えないかもしれません。同じものを見ても "悟り" のある目で見る事が出来るように願いましょ。そうすれば私達の目が開くと信じます。

ありがとうございました。